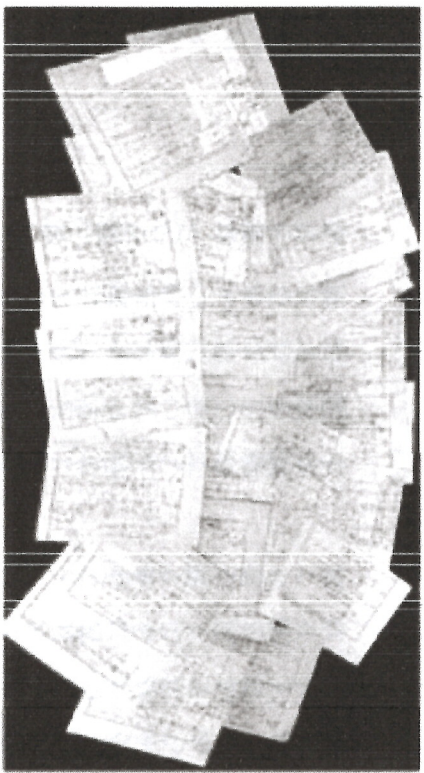


昭和天皇の直筆原稿 寄贈

元内舎人・牧野氏 学習院に



寄贈された昭和天皇の直筆の原稿＝迫和義撮影

昭和天皇が晩年、御製(和歌)を推敲する際に使ったとみられる直筆の原稿について、保管していた男性が4日、学習院大学史料館(東京都豊島区)に寄贈した。男性は取材に「適切な研究機関に保管してもらえたい」となりほつし

男性は天皇の身の回りの世話をする「内舎人」を務めた

牧野名助さん(83)。昭和天皇の直筆原稿は、朝日新聞が今年1月1日付朝刊などで詳報した。牧野さんは寄贈を機に、朝日新聞に対し、改めて経緯の公表に応じた。

業大名誉教授らの協力を得た。今年1月、昭和天皇の逝去30年の節目にあたり、「家調査で、「宮内庁」の文字が入った罫紙29枚は、少なとども2014首の和歌が鉛筆でつづられていることがわかった。うち11首は昭和天皇の生涯を宮内庁がまとめた「昭和天皇実録」や、宮内庁侍従殿編の歌集「おほづなは



牧野名助さん

らに未掲載だった。牧野さんによると、罫紙は昭和天皇の晩年に側近らがお住まいの吹上御所を整理していた時期に見つけた。紙の束を処分する際、見覚えのある昭和天皇の筆跡で記された罫紙が交差しているのは気付いた。男性は「大切なものではな

手元で保管した。その後まもなく昭和天皇が逝去し、大喪の礼の準備や遺品整理に追われ、原稿の存在を思い出したのは1989年の退職から10年後だ。自宅

皇室に詳しい所功・京都産業大名誉教授らの協力を得た。今年1月、昭和天皇の逝去30年の節目にあたり、「家族や側近らを思つ和歌から陛下(昭和天皇)の温かい人柄をもつ一度世間の人に知ってもらいたい」と朝日新聞に文書を開示。寄贈する研究機関を探していた。

史料館では、皇族や華族の手紙や文書、資料を受け入れることとしている。昭和天皇に関して、子どもの頃に描いた絵が学習院関係者から寄贈され、公開したこともあ

所功・京都産業大名誉教授の話 昭和天皇に関して、このように自ら記したものはほとんどない。直筆の和歌原稿は、晩年の昭和天皇の率直なつぶやきを知ることができ、第一級の資料といえよう。稀有な遺品が皇室とゆかりの深い学習院大学史料館に保存されることになり、今後の研究に役立つ。この道が開かれた意義は大きい。

研究活用へ道

宮内記者